

■ ■ ■ はじめに ■ ■ ■

生まれ育った地域によって、人がもつ気質に傾向が出ます。これを県民性といい、歴史的背景や地理的なこと、気候など、さまざまな要因が影響を与えています。また、個人が生まれ持った気質や、その人が長男・長女であるのか、次男・次女であるのかといったこと、生まれ育った家庭環境などにも左右されるため、一概にはいえないかもしれません。

しかし、エリアマーケティングのコンサルタントとして西へ東へくまなく日本中を見て、話しを聞き、ときにはアンケートを取ったりしながら戦略を練ってきた経験から、大きな傾向として、県民性は存在していると断言できます。

では、なぜ県民性を学ぶことが重要なのでしょうか。

ビジネスの話に限ると、県民性によって商売のしやすい地域、しにくい地域が存在します。商売がしにくい地域であっても、その県の県民性をきちんと理解しさえすれば成功できる可能性を秘めています。「商売がしにくいから」といって見向きもされなかった地域に、じつは宝の山が眠っているかもしれないのです。逆に、商売がしやすいとされる地であっても、県民性をきちんと理解していなければ、どこに地雷があるかはわかりません。このように、ビジネスの成否はまさに県民性が握っているといっても過言ではないといえるのです。

また、ビジネスに限らず「よい人付き合い」をするためには、当然のように相手のことをよく知る必要があります。相手のことを知り、相手が何に喜び、何に怒り、どんなことに興味があるのか。これらに気を配ることはコミュニケーションの基本ともいえるのではないのでしょうか。その指標のひとつとなるのが県民性なのです。

「知って得する県民学」第1巻では東日本の各都道県の県民性を紹介しています。開拓の歴史がある北海道から、冬に厳しい気候の東北地方、首都・東京都を中心とした関東地方、山がちな甲信越・北陸地方、温暖な東海地方と、さまざまな県民性の都道県があります。ぜひこのテキストを読んでビジネスや人とのコミュニケーションに役立ててください。

No.1戦略研究所 所長
矢野 新一

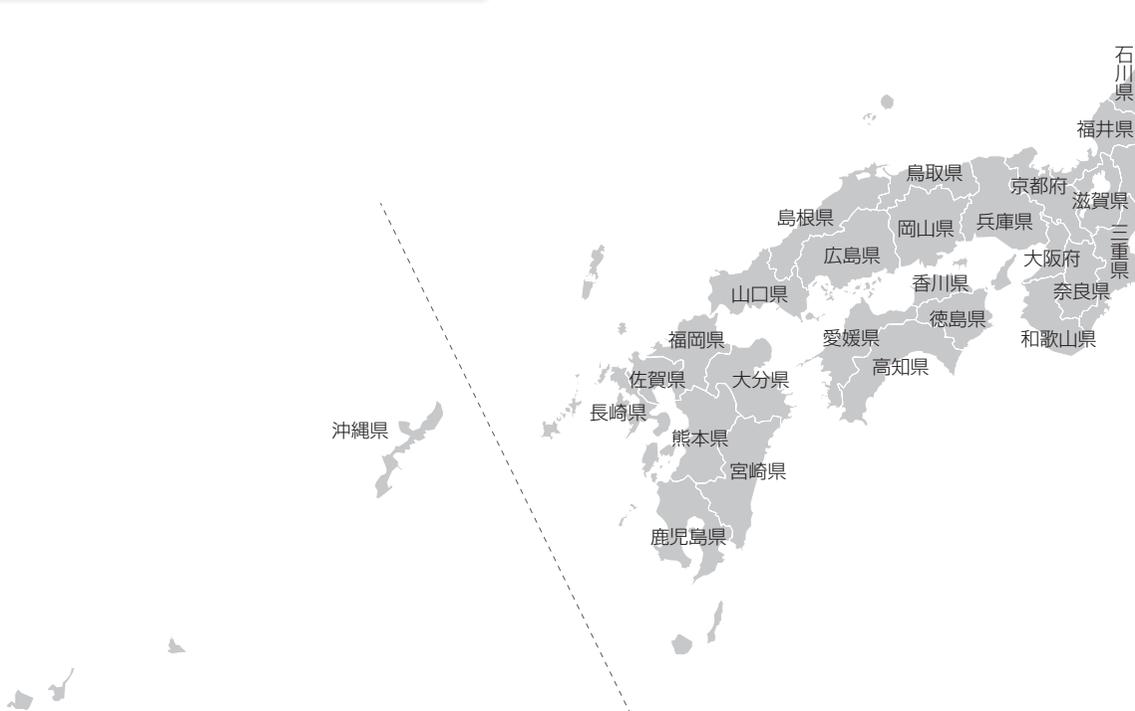
県民性早見表

北海道・東北地方の県民性	
北海道	何事も大きい北海道
青森県	真面目で誠実で温和
岩手県	真面目でしっかり者
秋田県	優しくひかえめ
宮城県	おおらかで人当たりがよい
山形県	コツコツ努力
福島県	ひかえめで粘り強い

甲信越・北陸地方の県民性	
山梨県	現実志向
長野県	真面目で几帳面
新潟県	真面目で辛抱強い
富山県	勤勉な実利主義者
石川県	なかなか本心を明かさない
福井県	負けず嫌い

関東地方の県民性	
茨城県	怒りっぽい北部とおおらか南部
栃木県	いぶし銀の県民性
群馬県	情に厚い義理人情タイプ
埼玉県	マイペースでも協調性アリ
千葉県	広い平野が育んだ楽天性
東京都	薄れつつある都民性
神奈川県	誇り高い

東海地方の県民性	
静岡県	漁民気質の東部、楽天家の中部、行動力のある西部
愛知県	堅実だが車のマナーは……
岐阜県	保守的で忍耐強い
三重県	おおらか気質





関西地方の県民性	
滋賀県	曲がったことが大嫌い
京都府	本音と建て前を使い分ける
大阪府	気さくでエネルギッシュ
兵庫県	誇り高い東部、流行を追う西部、保守的な北部
奈良県	のんびりタイプ
和歌山県	素朴で付き合いやすい

中国地方の県民性	
鳥取県	内向的な因幡と商人気質の伯耆
島根県	辛抱強い出雲と行動力のある石見
岡山県	クールで合理的
広島県	盛り上がり度No.1
山口県	保守的で郷土意識が強い

四国地方の県民性	
香川県	教育熱心
愛媛県	陽気で親切で素朴
徳島県	商売人気質
高知県	「いごっそう」と「はちきん」

九州・沖縄地方の県民性	
福岡県	楽天的な目立ちたがり屋
佐賀県	「イヒユモン」の気質
長崎県	開放的でおっとり気質
熊本県	頑固な「肥後もっこす」
大分県	誤解されやすい
宮崎県	お人よしでのんびり屋
鹿児島県	豪快だが保守的
沖縄県	南国気質

学習実施日： / /

1

学習スケジュールを立てる

テキストでの学習を始める前に、講座全体の学習スケジュールと、各章の学習予定日を決めましょう。各章の扉ページには、各見開きごとの学習予定日を記入する欄がありますので、ここに記入しておきます。

2

各単元の学習を行う

事前に立てたスケジュールに沿って、無理のないペースで学習を進めていきます。テキストでの学習が終了したら、添削課題を作成し、提出します。

各章の構成

県民気質をつくった風土と歴史：章内で紹介する都道府県の県民性の背景となる地理的要因や歴史的要因を紹介します。続く各都道府県のページとリンクした内容になっていますので、重要だと思ったところなどには下線を引くなどして、後で振り返れるようにしましょう。

各都道府県のページ：①紹介する都道府県の面積などの基本データ、②県民性、③コミュニケーションのポイント（喜ばれること／タブー）、④都道府県の雑学、の4項目で構成されています。重要と思うところに印をつけたり、余白にメモを取りながら読み進めて、課題に取り組んだり、復習したりする際に活用しましょう。

コラム：各章の最後には、コラムページがあります。このページでは、各地方がどのような地学的背景を経て、現在の地形・環境に至ったのかについて学習します。各地方への理解をより深めることを目指し、読み進めていきましょう。

3

添削課題を提出する

各テキストの学習が終了したら、添削課題に取り組みます。まず始めは、テキストを見ずに取り組んでみましょう。分からない部分については、テキストを読み返ししながら、解答を記入してください。すべての設問に解答し終わったら、期日までに提出してください。

北海道・東北地方

▶ この章で学ぶこと



この章では、北海道・東北地方の7道県（北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県）の県民性や雑学、コミュニケーションのポイントなどについて学習します。

▶ 学習スケジュール

	予定日		予定日
県民気質をつくった風土と歴史	/	秋田県	/
		宮城県	/
北海道	/	山形県	/
青森県	/	福島県	/
岩手県	/		

■ 厳しい気候が生んだ忍耐強さ

東北地方には、古来より、冬の寒さや雪の多さ、夏の冷害に苦しめられてきた地域が多くあります。そのため、慎重さや忍耐強さ、保守的な気質が育まれていきました。また、山岳地帯も多く、地域間の交流が難しい土地に身を置いていたことから、内向的な性質も見られます。

一方、北海道には開拓の歴史があり、本州で多く見られる武家文化の影響を受けない、自由な性質を育んでいきました。

山形県

YAMAGATA

「東北人らしい」のが山形県民です。豪雪に見舞われることが多く、厳しい気候と戦いながら生活を営む地域であったため、周囲の人と協力しながら農業を行いました。このような背景が、県民性に影響を与えています。また、江戸時代に分立した山形県内の4藩が、先進的な文化を取り入れたことも、現在の性格を育む要素となりました。

秋田県

AKITA

東北内においては、とくに雪が吹き荒れる地域だったため、周囲の人と助け合いながら生活をしていました。また、水に恵まれたことから米作や酒造が充実し、おおらかな性格の農村として発展していきました。こうした背景が、現在の県民性に影響を与えています。加えて、常陸国から移動した佐竹氏によって治められた秋田藩が、規律・規則に緩く、独自の文化が根付くには至らなかったことも、古来の性質をそのまま残した要因となっています。

宮城県

MIYAGI

「ひとめぼれ」に代表されるように、農作が盛んな地でありましたが、寒さが厳しい側面も強く、東北的な気質を下地としています。しかし、江戸時代に伊達政宗が中心となった仙台藩が、江戸文化の影響をもたらしたこと、明治時代より東北地方の中心として捉えられ、先進的な文化が発展したことが、現在の県民性に大きな影響を与えました。

福島県

FUKUSHIMA

福島県は、阿武隈高地と奥羽山脈を境界に、3つの地域に分けられます。容易に行き来ができなかったことから、それぞれに独自の文化が築かれていきました。西から、会津（若松県）、中通り（平県）、浜通り（旧福島県）と呼ばれています。会津には、大藩であった会津藩の文化、中通りと浜通りには、庶民が中心となった開放的な文化が育まれていきました。





北海道

HOKKAIDO

行政管理がはじまった後の北海道では、東北地方を中心とする全国各地からの移住者、戊辰戦争に敗れた武士など、多くの人々が開拓を行いました。このような背景のもとで、多様な人々が協調をしながら文化を挙げたこと、本州の武家文化の影響を受けず、家柄や身分にとらわれない環境に身を置いたことなどが、道民性に影響を与えています。

青森県

AOMORI

全域において、寒く気候の厳しい地域であったことが県民性に影響を与えました。しかし、津軽（西部）と南部（東部）では性質が異なります。これは、津軽は日本海、南部は太平洋の気候に影響を受けているためです。日本海側の気候では夏が温暖になるため、稲作が充実し、豊かな生活を行うことができた反面、太平洋側は1年を通して気温が低いため、気候と戦いながら畑作を行いました。また、かつては津軽藩と南部藩に分かれており、それぞれに独自の文化が生まれたことも、文化が分立した要因といえます。

岩手県

IWATE

北部と南部で県民性に違いが見られます。岩手県は、夏は短く冬が長いという厳しい自然条件下にあるといえますが、北部はとくにこの傾向が強く、凶作に悩まされ続けました。一方南部は比較的農耕が充実しており、こうした生活の違いがそれぞれの県民性を生み出しました。また、北部は南部藩、南部は仙台藩であったことも、南北で文化が分立した要因といえます。

何事も「大きい」北海道

北海道

北海道のエトセトラ

DATA

面積：約83,423km²

県庁所在地：札幌市

北海道がNo.1：ジャガイモの生産量

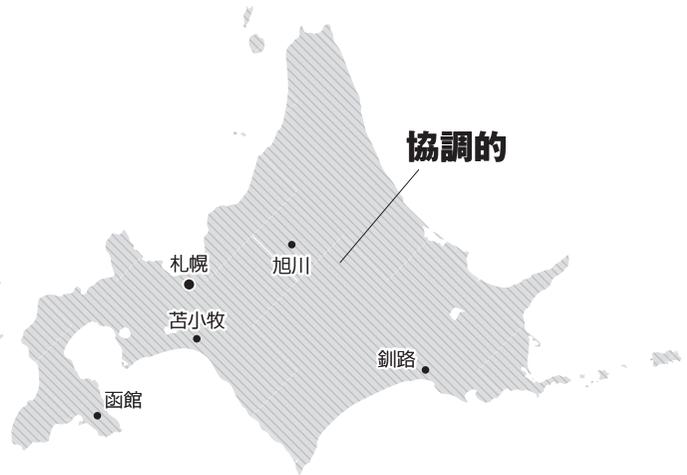
北海道がワースト1：エアコンの普及率

多い苗字：佐藤、高橋、佐々木

特産品：チーズ、鮭、イクラ、メロン

ゆかりのある人物：榎本武揚、井上靖、
大鵬幸喜

ご当地グルメ：ジンギスカン、
ちゃんちゃん焼き



北海道は47都道府県の中でいちばん広い面積をほこります。そのため、ほかの地域ではできない大規模農業がさかんで、作物の栽培に恵まれています。また、周りをぐるりと海に囲まれているため漁業も盛んで、おいしいものが多く「食の北海道」のイメージそのままといえるでしょう。

世界自然遺産の知床を中心に手付かずの自然が多いため、観光業も充実しています。旭山動物園や小樽の夜景、函館山や登別温泉などが有名で、多くの人が集まります。

北海道の道民性

全国各地から移住してきた人々が関わりながら開拓を進めたという背景から、協調性が高く、社交的な人が多くいます。一般的に寒い地域の県民性は閉鎖的になりがちのため、慎重であったり、内向的であったりする傾向がありますが、北海道は十分に文明の進んだ時代に開拓されたことから、そのような気質にはなりません。くわえて、開拓民によって、日本各地に見られた家柄や身分、格式などに囚われない文化が生まれたことが、おおらかな気質を育んだことに影響しています。そのためか、遊び好きの人間が多く、盛り場での飲食に浪費する傾向もあります。

また、開拓時代には、各地域からあらゆる最新文化が持ち込まれました。より進んだ文化を生み出そうといった気風があったため、現在でも新しいものを好み、行動力のある人が多い傾向にあります。

女性の芯の強さや辛抱強さも目立ちます。これは、開拓時代に男性とともに働いたことが下地になっています。「夢見る乙女」的な女性は少なく、現実主義者が多い傾向といえるでしょう。自立心も強く、物怖じすることは少ないです。

北海道民に喜ばれること／タブー

喜ばれること：北海道の雄大さや食べ物をほめること。温泉（広さなど）やファッションの趣味をほめるのもよいでしょう。

タブー：保守的なものを無理矢理押しつけないこと。きちんとした説明が必要です。道東の人たちは札幌への苦手意識を持っていることもあるので、会話をするときには注意しましょう。

北海道の雑学

【徳用品が売れる】

北海道ではビールや発泡酒のケース買いはもとより、食品や日用雑貨も大容量のものが売れます。広大な土地だけにスケールが大きいと思うかもしれませんが、真の要因は価格への意識が高いことです。そのため、スーパーマーケットなどでは「1つより2つ買った方がお得」という価格設定になっています。また、同じ商品でも購入する量によって1個当たりの価格が3通りある店も多く見られます。

【祝儀袋が売れない】

北海道では冠婚葬祭が比較的簡略で、結婚披露宴も会費制になっていることが多いです。会費は結婚式や披露宴の費用にあてられ、出席者は少なくとも100人程度。200人や300人に及ぶことも一般的となっています。このような形式を取っているため、お金を祝儀袋に入れる機会がなく、袋が売れないのです。また、葬儀において、香典に領収書が付いたり、香典返しがなかったりと、独特のルールが根付いています。

【“別” という字の付く地名が多い理由】

芦別市、江別市、遠別町、音別町、上湧別町、津別町、登別市、紋別市など……。北海道には「別」の字を用いた地名が多く見られます。「別」はアイヌ語で「大きな川」を意味する「pet（ペツ）」に当てられた漢字です。アイヌ民族は川を非常に重視していました。川沿いでの生活を基本とし、食料の調達や交易も川を基盤に行った背景から、このような地名が多く残されているのです。他にも、稚内市や岩内町、黒松内町などのように、「内」の付く地名や、苫小牧市、島牧村のように「枚」の付く地名が見られます。これらの字は、いずれもアイヌ語で「小さな川」を意味しています。



函館の夜景

真面目で誠実で温和 青森県

青森県のエトセトラ

DATA

面積：約9,645km²

県庁所在地：青森市

青森県がNo.1：りんごの収穫量

青森県がワースト1：日照時間（2016年）

多い苗字：工藤、佐藤、佐々木

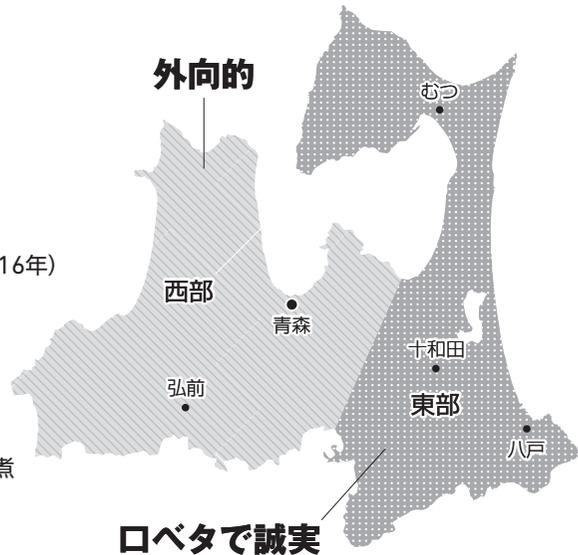
特産品：りんご、にんにく、ごぼう

ゆかりのある人物：棟方志功、

太宰治、

寺山修司

ご当地グルメ：せんべい汁、いちご煮



青森県は本州の一番北に位置し、年間を通して冷涼な気候です。そのため、りんごのような涼しい気候に合った農作物の生産が盛んです。また、秋田県との県境にある白神山は世界自然遺産に指定されているように、県内のいたるところに自然が残されており、観光客を集めています。そのほか、今や全国に広がっている「ねぶた（ねぶた）祭り」は青森県発祥で、「青森ねぶた」と「弘前ねぶた」がとくに有名です。

青森県の県民性

気候や藩による分立の背景から、東部（南部）と西部（津軽）で県民性が異なります。
東部（南部）：太平洋側の気候の影響から、一年を通して温度が低い傾向にありました。このような状況と戦いながら畑作を行った背景から、何事に対しても手抜きをせず、真面目で辛抱強い気質が育まれました。男性は引込み思案なところがありますが、誠実で温和。女性は、考え方や生活まで堅実な傾向にあります。

西部（津軽）：夏の温暖な気候により、稲作が充実していました。米は交易の材料としても十分なものであり、非常に恵まれた生活を送ることができたといえます。こうした背景から、陽気で友情に熱い、外向的な気質が育まれていきました。男性は頑固な一面、女性は行動力があり世話好きな一面もあります。また、津軽は、蝦夷で権力を持った安東家の息が最も強かった地域です。安東家は幕府との繋がりが薄く、自立した文化を築くことができたため、現在の津軽民に見られる、自由で開放的な気質が生み出されました。